

## 【令和5年度事業計画】

### 令和5年度運営方針

#### コロナ感染症の終息と事業の拡大

2021一昨年、歴史の大きな節目になる予定の「東京オリンピック・パラリンピック」が開催され、「コロナを克服したオリンピック大会」になったことは、ある意味、オリンピック・レガシーになったかと思います。その後、2021年11月にオミクロン株がアフリカで発生し、すぐ日本にも侵入し、2022年1-3月の第6波、7-10月の第7波をピークに2023年に至っています。本年5月には、新型コロナウイルスが2類から5類になることによって、インフルと同じ扱いになり、通常の業務に復帰致しました。今後順次、コロナ以前の状態に戻していきたいと考えております。

#### 日本の「脱炭素」への険しい道

菅政権の時代に新しい政策として「グリーン化とデジタル化」が打ち出され、グリーン化では「2050年に温暖化ガス排出実質ゼロ」を目指し、再生可能エネルギー（再エネ）を拡大し、2035年には一般のガソリン車生産を終了してPHV、EV化し、EV車やIT化などによって増加する電力を再エネや水素で供給するというにしています。

先進国はこれらの技術開発を進めることができますが、途上国をフォローするための資金援助という大きなハードルがあり、COP26以降では、その問題に対する南北対立が表舞台に出てきました。

日本では、再エネ供給の太陽光パネルが休耕地や森林伐採などにより設置されており、景観の劣化、災害の誘発、食糧生産の減少など、環境に良くない面が出てきているとして一部見直しが始まっています。また、有毒なレアメタルや重金属等を含む廃棄パネルの処理の問題ができており、資材のリサイクルをどうするか、まだ緒についていません。デジタル化では、新設のデジタル庁のイニシアにより社会システムのデジタル化が一気に進むことが期待されていましたが、マイナカードの誤作動や、デジタル化に多くの電力が必要になることなど、想定外の新たな問題が生れています。

目下の二酸化炭素排出削減は、英国と日本が進んでいるようですが、CO2排出量は中国が最も多く、コロナ下でもやや増加し、中国、インドなどの途上国は2030年までにCO2排出量を増加させる計画です。日本のCO2排出量は世界の3.3%と少なく、乾いた雑巾を絞るような努力が必要であり、ある意味空しい努力ともいえます。このようなことから、世界の「脱炭素」は南北問題で頓挫するように感じています。

#### 現代の「脱プラ」は難しい

5年ほど前に出てきました「脱プラ」という言葉は、各論で検討してみると現実的にはかなり難しい問題のようです。プラスチックを使わないとすると、PLやヒートシール性などの問題から多くの紙容器が使えなくなり、金属缶も塗装缶も使えなくなります。また、プラスチックを使わないとすると、現在の包装機械の多くは使えなくなるものと

考えられます。

新型コロナの感染拡大防止にもプラスチックフィルム・シート・容器が広く使われ、この間に家庭におけるプラごみが2割ほど増えたと言われていています。また、プラスチック製の使い捨て医療器具が激増しており、ワクチン接種でも、PCR 検査でも、ほぼ全てを使い捨てプラスチックに頼っています。

日本の石油消費の約1%を占める食品用のプラスチック包装資材は、毎日の食生活にとって非常に重要であることを再認識し、もしプラスチックが使えなくなったら私達の生活がどう変わるのだろうかと考えてみるのも重要かと思えます。

日本では、最も多い家庭からのプラごみは分別回収が行われ、プラスチックは再資源化しようとしています。しかし、容り法の関係でうまく集まっていないようです。現在の日本の分別回収法では、同じプラを集めるのは至難であり、プラごみには生ごみの助燃材としての役割を担って貰い、焼却時に熱回収と発電を行うのが良いと考えられます。この方法は北欧諸国で行われており、可燃ごみをエネルギー源として有効利用を図る施策が重要と考えられます。

プラスチックの日常生活に果たす重要な役割を考え、日本が50年以上に亘って積み上げてきた分別回収システムを広くアジアの国々に普及させ、途上国から出される海洋プラを減らし、日本が率先して海洋プラ問題の解決に向けて努力していくことは、日本に課せられた重要な課題であると思えます。2019年のG20における宣言では「海洋プラ問題のイニシアは日本が採る」との決意が表明されています。

### プラスチック包装の担う役割

食品ロスを削減し、災害に備えるために、食品のロングライフ化が進められていますが、この目的で使われるアクティブ包装の分野では、脱酸素や抗菌、アクティブバリアーなど多くの技術や資材があります。これらの多くは日本発のものであり、これまで欧州や中国で日本のアクティブ包装技術の現状を報告し、今もアクティブ包装は日本が世界の最先端であることを実感しています。

2020年6月に実施に移された食品用プラスチック包装容器のポジティブリスト（PL）制度により、アクティブ包装技術として認可された各種の機能性包装資材を広く世界に普及させることにより、多くの食品をロングライフ化させ、世界的に食品ロスを削減していくことに貢献することが期待されます。機能性包装による食品のロングライフ化は「食品を無駄にしない」「地震等の大規模災害に備える」といった視点や、「いつでもどこでも利用できる」という簡便性の視点や、「海外に輸出できる」という新しいニーズに合致する非常に重要な技術です。消費者・流通業者等に包装の意味と役割をしっかりと理解して貰う必要があり、同時に生活者への広報も非常に重要になります。

この約3年半の間は、新型コロナの感染拡大により、多くのイベントを中止せざるを得ませんでした。食包協も一昨年の年初からZOOMによるウェブ化を推進し、最近ではセミナー等のイベント開催や情報発信の体制も整い、事業を順次復活させ、活動の幅を広げています。何卒ご理解とご支援の程宜しくお願い致します。

## 食品包装関連団体とのコラボの推進

食包協は、これまで食品品質保持技術研究会、日本包装機械工業会とコラボを行ってきていますが、お陰様で当方の行事にも多くの方々に参加を頂き、当協会からも様々な事業に参加させて頂くことができるようになってきています。2020年、2021年はコロナで行事を休みにすることが多かったのですが、2022年はウェブの利用によって復活した諸行事で、相互に協力を進めてきました。今年度以降も、関連団体とのコラボを進めていきたいと考えています。

日本食品包装協会のメインテーマである「食品包装」は、日本の食を支える「食品産業」と、食品にとって不可欠な包装資材と包装機械を提供する「包装産業」とのマッチングで支えられています。当協会は、食品包装に関する様々な情報を提供するとともに、「災害などに備えたロングライフ食品の開発」や「輸出振興に役立つ包装」「食品ロスの削減」「スマート包装」「機能性食品包装」などに関する情報提供にも力を注いでいきます。

日本の食を支える「食品産業」（食品製造・配送・販売・外食）とそれを支える「包装産業」は、事業規模も就業人口も大きく、極めて学際的・業際的な分野であり、非常に奥の深い大きな産業分野になっており、私達の日常生活に欠かすことのできない食糧・食品・農畜水産物を安定的に供給する重要な産業になっています。これらの食料供給システムの円滑化に貢献すべく、引き続き関連情報の発信に努めて参ります。そのためにも、ホームページのコンテンツや会報を充実させ、会員の皆様へのサービスに努め、ご要望をお聞きしつつ、本年も事業活動の充実を図って参りますので、何卒宜しくご支援の程お願い申し上げます。

## 食包協の事業活動の復活戦略

これまで食包協では、食品包装人材育成講座、食品包装シンポジウム、Next Package 展示会、食品包装セミナー、食品包装検定、勉強会、見学会などの様々なイベントや、食包協会報、ホームページや書籍の出版などで情報の発信を行ってきました。

これに加え、さらに体制を強化し、昨年度「食品包装学校」を開校致しました。食品包装を大学で殆ど教えていないことから、大学などでは学べない「食品包装」に特化した知識を提供する教育の場として昨年の5月から「食品包装学校」を開校し、今年度は第二期になります。

### （1）食品包装人材育成講座（初級）

昨年度は、食品包装教育の基本である人材育成講座をウェブで開催しましたが、多くの人に参加して頂きました。今年度は内容をさらに充実させるために、従来3日間であったものを4日間にし、昨年同様ウェブで開催する予定にしています。昨年同様、多くの皆様の参加を期待しております。

### （2）新しい課題にチャレンジする「食品包装シンポジウム」

第24回になる「食品包装シンポジウム」は、食品包装の課題をパネルディスカッション

ョン方式で討議して頂く目玉事業であり、昨今は、多岐にわたる環境問題と、食品包装技術の海外展開などを主な課題としています。今年度もタイムリーで魅力のあるテーマを採り上げ、開催したいと考えています。多くの方に参加して頂き、ディスカッションを盛り上げて頂きたいと考えています。

### **(3) 会員の増強に大きく貢献する展示会「ネクスト・パッケージ」**

会員の増強に大きく貢献している「ネクスト・パッケージ」は、昨年度は人数制限をしてリアルで行いましたが、今年度は昨年度のような会場への人数制限ではなく、感染の状況を見つつリアルで開催したいと考えています。多くの会員の方々の展示参加と会場参加をお願いし、魅力のある展示にして頂きたいと考えています。

### **(4) 人材育成活動の進化を担う「食品包装学校」の開校**

今年度の「食品包装学校」は、第二期として一層の充実を図っていききたいと考えています。「多様な食品に関する知識と包装資材・技法・機械に関する知識と、食品ロス、包装廃棄物等の社会活動に関する知識を修得して頂き、食品包装を丸ごと理解できる食品包装技術者や研究者を育成することにより食品包装産業に貢献する」ことを目指すと同時に、「食品包装産業に関わる受講者に相互交流・情報交換の場を提供する」ことを目的としています。

受講者には、2023年5月から2024年3月までの10ヵ月間に36講座を修得いただき、規定の条件満たした受講者には「食品包装に関する高度な知識を有している」ことを認定して修了証を授与すると共に、「フードパッケージ・スペシャリスト」の称号を贈ります。

講義に用いるテキストと講義の画像は、受講者が理解し易いように作成します。講義用テキストは、講義の前月末に受講者にメール配信し、講義用動画は、講義月初にYouTube URL を配信し、一定期間ウェブで見られるようにしています。

これまでは会員限定でしたが、次年度の第三期からは、会員外にも門戸を広げていきたいと考えています。是非とも「食品包装学校」の主旨をご理解頂きたいと考えています。

セミナーは、魅力あるテーマを選び、年6回開催する計画です。今年度から、食品包装学校の卒業生のためのセミナーも別途計画していますが、これについても、一般にもオープンにして良いか検討を勧めます。

### **(5) 食品包装の知識を広めるための食品包装検定**

今年度には、コロナのためにしばらく休んでいました「食品包装検定」を復活させる計画です。この事業はリアルで行う必要がありますので、少し広くなった新しい事務所で行うことを考え、事務所の移転後に計画を具体化させたいと考えています。検定に出す「問題」は、以前使ったものから出題することを考えています。

### **(6) 会員限定の人気のある見学会と勉強会**

人気のあった見学会ですが、受入れ側の企業・団体等の体制が整ってからということ、今年度の具体化は見送りの予定です。宜しくご理解のほどお願いいたします。

なお、勉強会については、計画が整い次第、お知らせしたいと考えています。

### **(7) ホームページの新規更新**

当協会のホームページは、そのセキュリティに課題がありましたが、セキュリティを高める必要から、新たなホームページを構築することにしました。これには、新たな投資が必要ですが、今年の10月から新しいホームページに移行するべく計画を進めています。これが構築できた暁には、これを媒体に広報活動をさらに進めていきます。

会報は、魅力のある会報作りという課題に取り組み、内容は勿論のこと、ネーミング、デザインなども含め、より愛される誌面を提供していきます。

#### **(8) 食包協の事務所移転**

最後に、従来からの懸案でした事務所の移転が具体化し、この6月に茅場町駅から徒歩5分程度の場所に移転することになりました。新事務所は今より1.5倍ほどの広さで、耐震強度も確かなビルで、かつエレベーター付きです。移転しました暁には、オープンハウスを行い、皆様にお披露目したいと考えています。今しばらく、ご不便をおかけしますが、何卒ご理解のほどお願いいたします。

#### **【令和5年度事業計画】**

- ・本年度の協会事業運営方法は、効率的且つ集客力アップを考慮し、リアルまたはWEB形式(ZOOM Pro)で選択・実施をする。
- ・食品包装セミナー：6回／年実施することとする。
- ・第2期食品包装学校（5月開校～3月終了）
- ・人材育成講座「初級」：本年度より、1日5講座で4日間（20講座）／4週の2回
- ・シンポジウム開催時期；10月中旬を予定する。（ZOOM ウェビナー開催予定）
- ・Next Package 展示会（第6回）、11月9日(木)リアル開催（秋葉原 UDX NEXT-1）。

※2023年7月31日現在の事業計画修正点

1. 人材育成講座（初級）計画では1日5講座で4日間（20講座）／4週の2回を1日5講座で3日間（15講座）／3週の2回（9月、12月）に修正となります。
2. シンポジウム開催時期は、10月を予定しておりましたが、2月実施予定。

令和5年度 事業計画				
			2023.07.31	
	会報発行	事業・行事内容	備考	
令和5年	4月	<b>No178号</b> ホームページ掲載 (4/29UP)	第1回運営委員会 (4/7(金)15:00~)	
	5月		第1回通常理事会 第2期食品包装学校開校(2講座)：5/12(金)13:30~開校式	
	6月		食品包装学校(4講座) 第1回食品包装セミナー (Zoom)：6月20日(火)15:30~	
	7月	<b>No179号</b> ホームページ掲載	食品包装学校(4講座) ・食品包装学校：フォローアップ(13:00~15:00) 第2回食品包装セミナー (Zoom)：7月19日(水)15:30~	
	8月		食品包装学校(2講座) 食品包装検定：未定	
	9月		★人材育成研修(初級)第1回目：(9月3日間) 食品包装学校(4講座) ・食品包装学校：フォローアップ(13:00~15:00) 第3回食品包装セミナー (Zoom)：	
	10月	<b>No180号</b> ホームページ掲載	食品包装学校(4講座) ・食品包装学校：フォローアップ2(13:00~) 第4回食品包装セミナー (Zoom) ・勉強会：	
	11月		食品包装学校(4講座) ・食品包装学校：フォローアップ(13:00~15:00) 第6回NEXTPACKAGE2022(秋葉原UDX)：11月9日(木) ※リアル展示会	
	12月		★人材育成研修(初級)第2回目：(12月3日間) 食品包装学校(4講座) 第5回食品包装セミナー (Zoom)：	
	令和6年	1月	《包装界合同賀詞交歓会》 食品包装学校開校(4講座) ・食品包装学校：フォローアップ(13:00~15:00) 第6回食品包装セミナー (Zoom)：1/19(木)15:30~17:	第5回運営委員会 (12/8(金)15:00~) 第2回通常理事会
	2月		食品包装学校(3講座) 第55回シンポジウム(Web開催)：	第6回運営委員会 (2/9(金)15:00~)
	3月		食品包装学校(フォローアップ+修了式、懇親会) *会場：北とぴあ	